

2018年度（第7期）

事業計画書

自 2018年4月1日

至 2019年3月31日

東京都千代田区神田錦町3 - 20 錦町トラッドスクエア6階

公益財団法人 読売日本交響楽団

2018 年度事業計画

2018 年 3 月 7 日
公益財団法人読売日本交響楽団

(1) 営業力の強化

経費節減と並行して、増収策に取り組む。自主公演では、チケットがどれだけ売れているかを示す指標である「有料入場者率」の一層の向上を目指す。2017 年度は過去最高だった 16 年度（85・5%）に迫る好調ぶりで、18 年度もこの水準を保ちたい。利幅が大きい依頼公演を増やすためには、従来のような地方ホールに加えて、ピアノの辻井伸行ら人気ソリストの大型国内ツアーに参加したり、資金力のある財団からの受注を増やしたりと、効率よく収益アップにつながる営業対象の拡大に努める。賛助会員の増加にも力を注ぎ、一般企業向け（一口 30 万円）の拡充のほか、17 年度からスタートした個人賛助会員（一口 1 万円）への勧誘をさらに強める。

(2) 新練習所の使用開始

川崎市麻生区の小田急多摩線「黒川」駅前で新築・移転を準備していた新しい練習所が、18 年 2 月末に竣工した。当財団は読売新聞社、日本テレビ、読売テレビの 3 社との間で賃貸契約を 3 月に結んだ。3 月半ばに現在の練習所（川崎市多摩区）からの引っ越しを済ませ、4 月 1 日から正式に稼働を始める。これで 15 年 1 月に始まった練習会場を転々とする状態から解放され、自前の本拠地でじっくり音楽作りに打ち込める環境が整う。4 月 10 日に常任指揮者シルヴァン・カンブルランと最初のリハーサルを行う。使用開始で年 3000 万円程度の経費増となるため、財団経営全体のなかで増加分を吸収していく。

(3) 現常任指揮者との総仕上げ

2010 年の就任以来、3 期 9 年のあいだ常任指揮者を務めてきたカンブルランは、この 4 月から始まる 18—19 年シーズンが任期最後の花道となる。総仕上げとして、過去のコンサートで好評を得た重要作品を再び取り上げるほか、最後の定期演奏会（19 年 3 月）では、シェーンベルクの声楽付き大作である「グレの歌」を披露して、有終の美を飾る。

18 年 4 月からはコルネリウス・マイスターに続く 2 人目の首席客演指揮者として、日本期待のホープ、山田和樹が着任する。山田は 19 年 1 月の公演に登場し、フレッシュな手腕を披露する予定だ。これで常任指揮者 1 人プラス首席客

演指揮者 2 人のトロイカ体制が完成する。

(4) 次期常任指揮者の契約

19 年 3 月に任期満了となるカンブルランの後任の常任指揮者は、約 3 年かけて選考作業を進めてきた。この 5 月にも、第 10 代常任指揮者との契約や、就任記者会見を行う方針。

(5) 南葵音楽文庫の活用促進

和歌山県へ寄託した音楽資料「南葵音楽文庫」のさらなる活用と発信を図り、同県庁および同県立図書館・博物館と連携を深める。ひとつの山場となる 2019 年の紀州徳川家創設 400 周年に向け、プロジェクトに協力していく。

(6) グループ内連携の強化

放送メディアをもつテレビ局は、コンテンツとしてオーケストラを活かせる可能性が大きい。読売グループ内のテレビ局との連携をさらに深めたい。

日本テレビとは、BS 日テレの新しい音楽番組で読響の映像を活用したり、人気番組のテーマ音楽を読響が演奏・録音しオリジナル音源化する新規プロジェクトを検討している。事業面でも、日本テレビが企画・主催するコンサートへさらに積極的に出演できるよう、協議していく。読売テレビとも、開局 60 周年記念事業の特別企画に参加するなど、新たな分野での協力拡大を目指す。

以 上

事業計画一覧

I. 自主公演（国内）		63回
1. 定期演奏会		10回
2. 名曲シリーズ		10回
3. 土曜マチネーシリーズ		10回
4. 日曜マチネーシリーズ		10回
5. みなとみらいホリデー名曲シリーズ		8回
6. 大阪定期演奏会		3回
7. 読響アンサンブルシリーズ		4回
8. 特別演奏会		8回
(内訳)		
首都圏特別		5回
地方特別		1回
第九公演		2回
II. 依頼公演		45回
1. 首都圏公演		32回
2. 地方公演		9回
3. テレビ出演		2回
4. 海外公演		2回
I+II 小計		108回
III. その他公演		71回
1. ハートフルコンサート		8回
2. フレンドシップコンサート		7回
3. サロンコンサート		41回
4. その他アンサンブル公演		15回
I+II+III 合計		179回